

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
多胎児家庭等支援事業			南保健センター				
事業目的		事業内容		活動指標	R6		
多胎児を育てる保護者は、多胎児特有の悩みや負担があり、多胎児の育児について話しあえる仲間と一緒に、悩みやしんどさを共有したいという思いがある。多胎児の保護者が交流を通じて悩みや不安を共有し、出産や育児の不安が軽減できることで、誰一人取り残さない、個に寄り添った「最大多様・最大幸福」のサービスを提供する。		多胎児を妊娠している妊婦、多胎児とその保護者（原則南区在住）を対象とし、保護者と子どもが交流することができ、また、子育て等に関する情報を得ることができる場（多胎児サークル「チェリーサークル」）を提供する。保育士等による手遊びなどを通じて、交流する。		利用者の声、参加者数など	多胎児特有の育児グッズの情報を知れた、他の多胎児家庭と知り合えた等の声があった。 参加者数（延）：30人 開催回数：4回		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	多胎児の保護者が交流を通じて多胎児特有の悩みや不安を共有することで出産や育児の不安を軽減でき、多胎児家庭を孤立させないことができる事業である。	○	子育て支援課の保育士と協働し、多胎児育児の先輩となる保護者の方をチェリーサークルに招いた。乳幼児を育てる保護者にとって、今後のこどもたちの成長や育児の見通しを持てる機会となった。	△	南区の特性としてのインパクトは少ないが、虐待予防の観点から多胎児家庭の孤立予防・子育て支援の意義は大きい。	○	年度当初に開催日を決めてチェリーサークルを実施したことで、対象者・支援者ともに計画的に参加へ向けての準備・支援をすることができた。
⑤自立発展性		総合評価					
○	サービス提供型の事業であるため、発展性は低い。多胎児家庭同士がつながりを持つことで子育てしやすい環境に寄与できる。	○	保護者と子どもが交流することができるだけでなく、子育てに関する情報を得ることができる場となった。				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
拡充 継続 見直し 廃止	多胎児家庭の交流に加え、多胎児を育てている先輩保護者に毎回参加してもらうことで、チェリーサークルを活用した支援の充実を図る。						